

特集

# 2

## 無線LAN携帯内線システム 第2ステージは中小に商機拡大

無線LAN携帯内線ソリューション市場は、いよいよ今から第2ステージに突入する。今夏、KDDIがE02SAで参入。さらに来春、ドコモも新デュアル端末を投入する。第1ステージでは高い期待に応えられなかったが、今度は違う。商機は中小企業市場にまで拡大していきそうだ。

むろん、それは高過ぎた期待の裏返しではある。

「期待外れ」。KDDIが「E02SA」を投入した今年7月以前、NTTドコモの「N900iL」が孤軍奮闘した約一年半を無線LAN携帯内線ソリューションの「第1ステージ」として総括すれば、大方のPBX/ビジネスホン関係者はこう評するだろう。「失敗だった」とまで言い切る者も少なくない。「N900iLが救世主になると期待していたのに……」とある通信系ディーラーは語ったが、それだけに落胆も大きかった。

とはいえ、着実に市場が拡大しているのも事実だ。例えば、大阪ガスに5000台超のN900iLを導入した富士通では、その後も「1000台超の大型案件を複数受注している」(ネットワーク事業本部企画開発事業部の児玉道夫プロジェクト部長)という。

初期に起こった数多くのトラブルも足を引っ張り、ロケットスタートこそならなかったが、無線LAN携帯内線市場は間違いなく急成長を続けている。

10月12日、ドコモは待望されたN900iLの後継機種「N902iL」を発表した。E02SAに続き、ドコモも新端末を発表したことで、市場は今からいよいよ「第2ステージ」に突入する。

「N900iLの発表時を上回る引き合いや問い合わせが来ている」。反響の大きさに確かな手応えを掴んでいるのは、NEC UNIVERGEソリュ

ーション推進本部の石原伸一 UNIVERGEサポートセンター長だ。

市場の高揚感を肌で実感しているのは、もちろんNECだけではない。各社の期待のボルテージは否応にも再過熱している。

第2ステージを迎えた無線LAN携帯内線市場は、大きく膨らんだ期待に今度こそ応えることができるのか。

第1ステージと第2ステージの相違点を中心に解説していく。

### 不満解消したN902iL

第2ステージで、まず抜本的に変わるのは、デュアル端末の性能である。最初にN900iLの後継機、N902iLから見ていこう。公式のアナウンスでは、販売開始は「来春」とされているが、複数の関係者によれば、来年2月を目標に最終作業が進められている最中のようなのだ。

N900iLを導入したユーザー企業からは、操作速度や発熱の問題など、少なからぬ不満の声が挙がったが、N902iLではこうした初歩的な問題はすべて解消されている。NTTドコモ法人営業本部ソリューションビジネス部オフィスソリューション担当の山岸哲夫課長は、「特に操作性については高い評価をいただいている」と自信たっぷりだ。

そのうえでN902iLは、大幅な機能向上を図った。同オフィスソリューション担当の大同俊明氏は、最も注力したことの1つは「セキュリティ」だと

話す。

携帯電話の紛失・盗難によるアドレス帳データの流出は、企業にとって看過できない重大なリスクとなっている。このトレンドは同時に、携帯キャリアにとっては、法人契約を獲得するチャンスともなっているが、N902iLではアドレス帳などを遠隔からロックできる「おまかせロック」機能や顔認証機能などを搭載。企業のニーズに応えた。

デュアル端末の最大の特徴とも言えるアプリケーション連携も進化した。その中核を担うのはブラウザ機能だが、N900iLでは搭載するWLANブラウザがiモード用HTMLの拡張版に対応したものであったため、ユーザー企業はN900iL向けにコンテンツを作り直す必要があった。しかし、N902iLはフルブラウザを搭

載。さらにアプリケーション連携が実現しやすくなっている。

ライバルであるE02SAと最も異なるのは、FeliCaを搭載していることだろう。入退室管理や勤怠管理、PCやプリンターでの本人認証、社員食堂での決済など、FeliCaを活用した法人ソリューションは数多く出揃い、導入企業も増えてきている。

PoC(Push to talk over Cellular)サービス「プッシュトーク」への対応も違いだ。米国では、建設現場や工場など、企業からPoCの人気に火が付いた。まずコンシューマー向けに訴求された日本では、まだほとんど普及していないが、企業の潜在ニーズは高いと思われる。

### 順調な滑り出しのE02SA

KDDIが今年7月、満を持して投入

した無線LANデュアル端末がE02SAである。本誌10月号でも報じた通り、富士通ビジネスシステムが8月から運用を開始。また、いち早くKDDIとパートナー契約を結んだ富士通とユニアデックスが、すでにいくつかの案件を受注するなど、順調な滑り出しを見せている。

E02SAでも力が入られているのがセキュリティ機能だ。N902iLと異なるのは、ユーザーだけの作業で、遠隔からアドレス帳データのロックや消去などができる点。N902iLの場合、センターに連絡し、ロックする仕組みとなっている。

N900iLでは、バッテリー持続時間の短さも不満の1つに挙がっていた。同問題の解決はなかなか容易ではないが、E02SAでは大容量バッテリーを用意することで対応。大容量バ

表 各社の無線LANデュアル端末の特徴

	N902iL	N900iL	E02SA
キャリア	NTTドコモ	NTTドコモ	KDDI
メーカー	NEC	NEC	三洋電機
サイズ	51 x 106 x 25.2mm	約48 x 102 x 27mm	約49 x 99 x 25mm
重量	126g	約120g	約119g
ディスプレイ	2.5インチQVGA	約2.2インチQVGA	約2.3インチQVGA
連続通話時間	未定	約160分(WLAN時)	約150分(WLAN時、パワーセーブなし)
連続待受時間	未定	約150時間(デュアル時)	約150時間(デュアル時)
無線LAN対応規格	IEEE802.11b/g	IEEE802.11b準拠	IEEE802.11b/g
セキュリティ	IEEE802.1x、WEP、WPA(TKIP/AES)	WPA相当	IEEE802.1x(EAP-TLS/TTLS/PEAP)、WEP(64/128)、WPA(TKIP/AES)
QoS	WMM、WMM-PS(IEEE802.11e EDCA、u-APSD相当)	独自方式	IEEE802.11e EDCA
価格	オープン	実勢9800円前後	実勢3万5000円前後
備考	FeliCa搭載。紛失時にNTTドコモに電話をかけることで、アドレス帳などを遠隔ロックできる「おまかせロック」に対応。顔認証機能も備える。このほかPDFビューアやプッシュトーク機能を搭載。	日本初の無線LANデュアル端末。インスタントメッセージやプレゼンス機能を搭載。	遠隔オートロック、遠隔データ消去、GPS MAPなどに対応。WordやExcel、PowerPoint、PDFなどの閲覧もできる。別売の電池パックLの装着時は連続通話時間約300分、連続待受時間約300時間。